

まえがき

一昨年から始まった学長裁量経費による諏訪湖―天竜川プロジェクトは 2 年目となり、当初の計画通りとは行かないまでも安定同位体 4 元素の測定態勢をほぼ整えることができました。これでプロジェクト進行の基礎の一部が整備され、基礎研究の一部については今後の研究の進展に見通しがついたわけですが、経費の重点使用の結果、他方面のプロジェクトメンバーには大変ご迷惑をおかけしたことになり、申し訳なく思っています。

また、事前連絡の不十分さから、本来は別費用として考えていた本信州大学環境年報の出版の基礎経費が環境プロジェクト経費に一括して繰り込まれた形となり、代表者の吉田利男先生、編集の星川和俊先生、経費申請代表者の佐藤利幸先生には大変失礼な結果となったことを、この紙上をお借りしてお詫びする次第です。

しかし、長年継続してきた環境年報を途切れさすことは信州大学が地の利を生かして取り組んできた個性ある環境科学研究にとって問題であり、学長からもその継続を期待されていることでもあります。そこで、本年度の年報については諏訪湖―天竜川プロジェクトの進行状況と平成 13 年度学長裁量経費で環境研究として一括された諸研究の現状、成果、あるいは今後への期待を含めた報告を主体にして編集させていただきました。もちろん、環境研究に関わる論文の収録は本旨でもあり、メンバーの多くの方からの投稿もいただき、感謝しているところです。

平成 13 年 7 月 11 日に総合科学技術会議から示された「平成 14 年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針」によれば、特に重点を置くべき科学技術の分野の一つとして環境分野があげられています。その環境分野で、特に重点を置いて優先的に配分する事項として、「地球温暖化研究」、「ゴミゼロ型・資源循環型技術研究」、「自然共生型流域圏都市再生技術研究」の三つの事項があげられています。信州大学の学長裁量経費で立ち上げてきた「諏訪湖・天竜川プロジェクト」はまさにこの最後にあげられている自然共生型流域圏に関係するプロジェクトに相当します。このことは信州大学の環境関連研究者の考えてきたことが時宜を得たものであることを示すものでもあり、自信を持って環境研究に取り組み、その成果を地元地域ばかりでなく広く世の中に発信していくことが期待されます。

個人的になりますが、私自身は本年 3 月をもって信州大学を定年、退職することになりますが、プロジェクトはこれから信州大学の環境研究に携わっている方々により、さらに発展していくことと期待しています。もちろん、私自身も信州大学の外からご迷惑にならない範囲で、できる限りの協力をさせていただきます。以上、平成 13 年度の環境科学年報の発刊に当たり、まえがきの紙上をお借りしてご挨拶させていただきました。皆様の今後の発展とご健闘を期待しています。

平成 14 年 3 月 14 日

理学部長 沖野外輝夫